

AI 医療にどう活用

理研、弘大で「科学カフェ」

高校生ら先端研究学ぶ

国立研究開発法人理化学研究所横浜事業所(横浜市)は11日、弘前市の弘前大学健康未来イノベーションセンターで、研究者と市民が気軽に科学について語ろうサイエンスカフェ「ビッグデータで健康の未来を予測する」を開いた。高校生や一般市民ら約100人が、人工知能(AI)を活用して病気を予防し、健康寿命を延ばす研究などに理解を深めた。

(菊谷賢)

同事業所はこれまで首都一エを開いており、本県での圏を中心にサイエンスカフェ開催は初めて。



村下教授⑤の分かりやすい説明に聞き入る高校生ら＝11日午後、弘大

弘大COI研究推進機構の村下公一教授は、同大が

2005年度から実施している若木健康増進プロジェクトを紹介。健康な人の腸内環境や体力など、2千項目にわたって調べ、ビッグデータとして蓄積。AIなどを駆使して病気の予測や予防に役立てる世界的にも珍しい取り組みを説明した。また、本県の短命返上や健康寿命延伸の可能性を強調しながら、高校生らに「強い意志と情熱があれば、道は開ける」と、より良い社会づくりへ向けメッセージを送った。

理化学研究所科技ハブ産連本部医科学イノベーションハブ推進プログラムの三

木一郎マネージャーは、学習して進化するAIの特性を医療分野に生かす取り組みを説明した。また、人間とAIの能力が逆転する「シンギュラリティー」の概念を紹介しながら「AIの未来を決めるのは若いあなたたち」と訴えた。

講演後、青森高校1年の高橋慶介さんは「分かりやすい内容だった。世界的な話題も聞けて新鮮だった」と語った。じっくりと講演に聞き入っていた安田知生さん(34)は「弘前市は最先端の話聞ける場が身近にあることはありがたい」と話した。